

# 東京湾水質一斉調査結果（速報）について 環境省



The Knights

国・八都府市等による東京湾の水質一斉調査（海域 312 地点、陸域 447 地点の計 759 地点）の結果（速報）が取りまとめられ、公表されました。調査項目は、海域においては溶存酸素量（DO）、水温、塩分であり、陸域においては、化学的酸素要求量（COD）、水温、流量となっていますが、今回の速報結果については、水温、塩分、DO、COD について公表されています。

今回の東京湾水質一斉調査では、昨年度とほぼ同様に内湾での夏季の一般的な傾向である水温、塩分の成層が発達しており、湾中央部から湾奥部に広がりを持った底層の貧酸素水塊が分布していることがわかりました。

多摩川、荒川からの河川水（淡水）の流入により、河口部周辺では塩分濃度が低くなっていて、塩分濃度は表層ほど低く、水深が深くなるにつれて高くなる傾向を示しています。また、河川が存在する湾奥部より、湾口部ほど高くなる傾向も見られました。

溶存酸素については、一般に夏季の成層期には上層から底層への酸素供給が抑えられたり、底泥の酸素消費等の影響を受けるため更に溶存酸素量が低下し、底層では貧酸素化する傾向が見られます。また、湾中央部から湾奥部に広がりをもった底層の貧酸素水塊が分布している状況が見られました。

化学的酸素要求量（COD）は、海域において湾中央部で 3.0mg/L 以上で湾口部より高い傾向が見られました。河川・陸域では、上流域ほど COD の値が低い傾向が見られました。

なお、今回の公表データはあくまでも速報であり、データの精度を公的に保証するものではありません。正式に公表データが取りまとめられ、発表され次第、あらためてお知らせ致します。

当社では環境水の他にも排水、下水、飲料水等、様々な種類の水質分析についての長年の経験と実績があります。お気軽にご相談ください。

資料 2009年9月7日付 県政ニュース(埼玉県)  
2009年9月7日付 環境省 報道発表資料

水質分析箇所 大塚卓也